

# 人も会社も刺激があれば輝く

入社希望者に必ずたずねること。それは、「食べるの大好き?」「他人を喜ばせるの大好き?」「二言。好き」ではなく、大好きが重要。それは、食を通じて健康に寄与し、文化を創造する」という経営理念を掲げる(株)日本栄養給食協会にとっては必須条件。「食は命の根幹を成すものであると同時に、人々に幸せを与えるものと考えています」と2代目社長の橋本正行氏は言い切る。だからこそ、作り手の姿勢にもとことんこだわる。

また、橋本氏は、「食べる人にとっては、1/1。だから瞬たりとも、手を抜いてはいけない。特別な皿、特別なひと。特別な1/1があつてこそ私の私たち」という理念を堅持し続けている。病院食をメインに幅広く事業展開する同社にとって、安全は当たり前、さらに安心であることを最優先に考える。そのためには、常に情報に敏感で、気がかりなものがあれば、自ら出向いて検証する。本人曰く「感性を磨くため」。

その結果、健康作りを基本に、食文化づくり、食育づくり、さらに、食べ物が循環することで、捨てる、を、活かす、に変える未来環境食循環システムの実現にも取り組んでいる。

## 食は命の根幹



## 人を活かす能力

「もともと自分は参謀型なんですよ」と、成長し続ける企業のトップとしては、謙虚なひとと言。参謀とは、人を支えてあれこれ策略を立てる人のことをいうが、確かに、社員が生き生きと仕事に取り組んでいる姿勢をみると、社員一人ひとりにとっての参謀役といえなくもない。「日ごろから、何をしたいのか、何をやるのかと問いかけて、意識づけはしている」そうだが、具体的指示で社員の自発性を引き出す手腕はお見事。

中学生の時は、「ガキ大将ではなかったけど、その他大勢でもなかった」ポジションをキープ。生徒会長の応援演説をして支えるなど、すでに参謀役として人に影響を与えていた。反面、先輩たちの指名で野球部のキャプテンに抜擢されるなど総帥としての片鱗も。要は、その人柄と能力で、多くの信頼を集める存在だったということだ。

生まれは、宇都宮市の郊外。姉二人と兄を持つ末っ子として、地域の中でびのびと育つ。「先生に恵まれました。小学校では先生のお蔭で算数が好きになり、中学校では、聞く時は聞く、板書する時は板書すると、メリハリをつけることを教わりました」と振り返る。人との出逢いをプラスにするかマイナスにするかは、その人次第。つまりは、素直だったということ。

時には、その率直さが裏目にあたこともあった。教師の理不尽さに反抗したり、高校の友人に誘われ政治的活動に首をつっこんだり、ロックアウト状態の大学時代には、誘われて広島や長崎のデモに参加したりして、当局にいらまれることも。また、友人をがばつておどされたこともあったとか。「社会の厳しい洗礼を受けましたね」と笑うが、こつこつとした経験が、人を活かす能力を持つ懐の深い人間を生み出したのかもしれない。

## 苦勞を楽しむ

入社してからは、先代社長を通してさまざま

なことを学ぶ。ある時、先代に、「しいいものとしちゃいけないものがある。これはしっちゃいけなミス」と厳しくいさめられ、自ら、慣れの気のゆるみがあったと真摯に反省。「失敗は、良い経験になったり知識を得たり力が付くものでもあるが、事前に対処すること、想定外を想定内にする事ができる。前準備をする大切さを学び、一生懸命やつてこそ、その結果も享受できる」と語る。社長に就任してからも、挫折の度に、「で、あるならば...」と目標を新たに、事業を広げてきた。

スポーツ観戦をしたり、TVNを聴いたり、東京のセミナー等に足しげく通ったりするのは、実は、時流をとらえようと共に、刺激を受け感性を磨くため。「人も会社も刺激があれば、より輝く」と。

座右の銘は、アメリカの作家レイモンド・チャンドラーのハードボイルド小説『ブレイバック』の主人公の言葉と先代社長の「苦勞を楽しむ」を足して、「強くなければ生きては行けない。優しくなければ生きてはならない。愉しくないとき生きていく意味がない。基本はやさしさ。でも、それだけでは企業はだめ、強くなつてはけません。大切なのは、愉しむ」とかみしめるように言う。命に直結する仕事で緊張も伴いながら、使命として取り組んでいる姿勢に、誇りさえ感じる。それは、地味ではあるが、確実に地域貢献の一端を担い、さらに、未来へ向けての大切な一歩になっている。入社式で会社紹介をした後、「この説明は現在までのこと、半年先、1年先は変わつている」と必ず言い添えるそうだが、これからのさらなる進化がとてもしみみである。【取材日：平成28年9月8日】

## Profile

昭和27年8月11日宇都宮市生まれ64歳。4人兄弟の末っ子として育ち、地元の小中学校を経て、栃木県立東高等学校、明治大学で学ぶ。卒業と同時に、有限会社日本栄養給食協会に入社。運転手を兼ねて創業者の高久全輔氏に同行することで多くを吸収。その後、総務に在籍しながら、病院の患者給食の立ち上げに尽力。平成元年に株式会社日本栄養給食協会として分社独立し、副社長に就任。平成4年12月に現職に就く。スポーツ観戦からJAZZまで幅広い分野に造詣が深く、地元プロスポーツへの支援も惜しまない。家庭にあつては、幼なじみの愛妻と共に、常に「必要な時にいる父親」として、一男一女を育て上げた。

はしもと まさゆき  
橋本 正行

